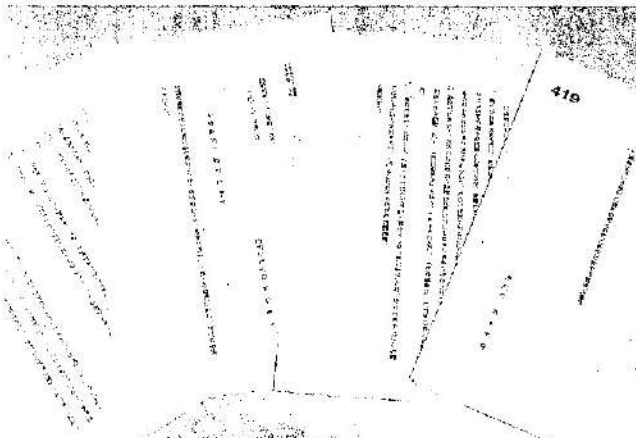


# 文化

bunka@ryukyushimpo.co.jp  
TEL 098-865-5162

鈴木宗男氏の「沖縄における集団自決をめぐる教科書検定に関する質問主意書」に対する安倍晋三首相(当時)の答弁書の複写



## 沈黙に向き合う

沖繩戦聞き取り47年

(97)

石原 昌家

前回から、鈴木宗男国会議員の質問主意書にたいする安倍晋三首相の答弁書(写真参照)を分析している。教科書の「集団自決」の記述から軍閥との削除をしたことに対する答弁は、援護法の適用を受けた「集団自決」した者には軍命令があつたと断定しながら、側証人として疑問をうけ

た以後も、国が家永氏に「集団自決」を書き加えるよう命じた(修正意見)ことについて、16年間、さまざまなか角度から考え、執筆も積み重ねてきていた私は以下のように読み解いた。

### 「密室」の検定から

前回「二について」と同様、「二及び三について」も、その背景にはいろいろ

### 検定官の隠れみの

これまでの「密室」の検定とは異なり、安倍首相は「学級指導要領や教科用図書検定基準により、教科

「軍命明らかでない」/岩

# 教科書通してねつ造

## 「軍命」有無の自然解消狙う

な意味が込められている。まず、「歴史教科書の検定は、国が検定の歴史認識を確定するという立場に立つて行われるものではなく」という、一見もっともらしい政府文書の出所をたぐって

とす裁判の過程で、その内幕を白日の下にさらして、国の教科書検定委員が、直接執筆内容の修正を求めるといふことを「密室」検定の記録と相次いで出版し、その憲法違反の内幕を公にしていた。家永氏によつて、日本の教科書検定

したが、教科用図書検定調査委員会が馬脚をあらわした。いかにも民主的手続きを経た専門的な審議による教科書検定を装いながら、彼らは思い通りにことを進んでいる。

### 国民に覚悟説く

政府は沖縄住民の革命での「集団自決」を軍事行動だと断言して、戦闘参加者という法的身分を付与し、肉親に遺族給付と金を支給している。この視点で回答文を読み解くと、(一)「集団自決」は戦闘参加者(戦闘参加者)の遺族と(二)「集団自決」した遺族年金受給の先順位者の遺族と(三)自然に革命有無の問題も存在しなくなる予測しているようだ。

(次回は2月後半掲載)

沖繩戦の真相にふれるたびに

戦争というものは

これほど残虐だが、これほど汚辱にまみれたものはない  
と思っております

この なまなましい体験の前では  
いかなる人でも

戦争を肯定し美化することは、できません

戦争をおこすのは たしかに 人間です

しかし それ以上に

戦争を許さない奴力のできるのも  
私たち 人間 ではないでしょうか

戦後このかた 私たちは

あらゆる戦争を増み

平和な島を建設せねば、と思いつけてきました

これが

あまりにも大きすぎた代償を払って得た

ゆるぎのないことのできない

私たちの信条なのです